

**〈活動内容〉**：第5回 APHW 国際会議に参加し、「灌漑取水を考慮した水資源モデルの構築とチャオプラヤ川への適用に関する研究」の発表を行った。学会後は、ベトナム北部における農地管理状況や河川整備状況の調査を行った。

**〈感想〉**：会議では、興味深い発表が多かったが、その多くは日本の研究者の方の発表であった。海外では、日本よりも研究の結果に対する評価が高いように感じ、今後はその様な傾向を意識しつつ研究を行っていく必要があると感じた。また会議外でも個人的に議論を行い、互いの研究内容を紹介しあい、交流を持てる知人を多く得る事が出来た。現地調査では、乾季の始まった現地の農地や河川を視察した。特に農地調査では、乾季における農地の状態や、利用可能な水量の有無が二期作・二毛作の実行の可否を決定する要素である事が理解できた。普段の研究では、上空からのリモートセンシングデータとして数値としてとらえていた現地を実際に見る事が出来た事は、今後の研究に大いに役立っている事が出来ると言える。

総括として、私自身の研究活動に大きなプラスを与える活動を行える事が出来た。この経験を基に、今後も精力的に研究活動に取り組んでいく所存である。支援を頂いた京土会に、深く感謝申し上げます。